

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日	高橋 仁		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日	東郷 治久		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士															
文化・教養	専門課程	ペットビジネス学科愛玩動物看護師コース			平成19年文部科学省 告示第20号	-															
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と技能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																				
認定年月日	平成27年2月17日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
	3年 昼間							3139時間	1394時間	1745時間											
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
180人		159人	0人	3人	5人	8人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:評価点100～90AA、89～80A、79～60B、59～40C、40～0Dの5段階 Dは不合格 評価の方法:実技・筆記試験・授業態度・出席率を総合的に評価する。																
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月15日			卒業・進級条件	履修する全科目を単位修得した者																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個別面談、保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 技能競技会への参加 ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ペットショップ、動物病院、動物飼育施設他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JDA小動物衛生看護士1級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物看護師</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JDA小動物衛生看護士1級	③	7人	7人	愛玩動物看護師	②	7人	6人					JDA=全日本愛犬技術者指導協会
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
JDA小動物衛生看護士1級	③	7人	7人																		
愛玩動物看護師	②	7人	6人																		
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 4% 令和4年4月1日時点において、在学者109名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者104名 ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、学習意欲喪失、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談の実施、保護者面談の実施、校内行事の定期開催																				
経済的支援制度	・入学時特待生制度 ・わんわん奨学生制度 ・進級時特待生制度 ・震災復興特別進学応援制度 ・震災復興学生寮費サポート制度 ・一人暮らし応援制度 ・運転免許取得応援制度 ・通学定期代半額応援制度 ・自動車通学サポート制度 ・自動車購入応援制度 など																				
第三者による学校評価	なし																				
当該学科のホームページURL	https://www.tip.ac.jp/																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校教職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認をもって決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時)

第1回 令和4年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和4年10月3日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・複数の専門知識、技術をもった人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いして

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド
-----------------	--	------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月20日 つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ活動の内容と配属について講義を受け理解を深めた。
 日常の授業準備時等に動物提供や施設の使用など要望や注意点についてつくばわんわんランド各部署長とその都度協議し、指導に反映させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和4年9月17日から9月19日に、校長の指示により、教員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日～18日 つくばわんわんランドの動物飼育研修に教職員を参加させる。
 令和5年9月～10月 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

年度末に全職員による企業等から講師を招いて就職指導などの実務研修会を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

各業界団体が主催する学会や競技会、セミナー等への参加を奨励し、校長の決済により参加費、交通費等の経費を一部または全額支給する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自らの教育活動と学校運営について、社会や業界のニーズに合致した目標設定であるか、またその取り組みが適正であるかを判断し、その評価と公表により組織的、継続的な改善を図るものである。
 学校教職員、企業、業界団体、卒業生など学校に関係する人達がそれぞれの視点で学生の事を考え、意見を出し合い、より良い学校づくりに寄与するものである。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。

管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。

評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局

松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 7月公表

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科愛玩動物看護師コース) 令和4年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みと解剖学及び生理学の基礎を知り、動物体の構造と機能について学習する	1通	136		○			○			○		
○			動物繁殖学	犬や猫の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。ペットに適正な繁殖について学習する	1通	34		○			○			○		
○			動物病理学	生理機能の障害からどのような病気が発生し、どのように変化し、どのように回復するかを理解する。病変の特徴や分類などを学習する。	1通	34		○			○			○		
○			動物薬理学	獣医師が処方する薬剤についてその薬理作用や取り扱い、保存方法を習得し、服薬指導について学習する	1通	68		○			○				○	
○			動物感染症学	動物に感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習する	1通	102		○			○			○		
○			動物看護学概論	小動物獣医療における動物看護師の職域を確立するため多岐にわたる獣医師の業務を理解し、動物看護技術を学習する	1通	68		○			○			○		
○			動物医療関連法規	動物看護師が行う獣医療関連業務とそれを取り巻く法律の仕組みを理解し、法令遵守の精神と動物関連の法令を学習する	2通	34		○			○			○		
○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生などについて学習する	1通	68		○			○				○	
○			人間動物関係学	人間と動物の関係の歴史を理解し、人間と動物の関係性と動物介在療法などの活動を学習する	1通	34		○			○			○		
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科愛玩動物看護師コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物福祉倫理	動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規や人との関わりから動物福祉への精神を学習する	1 通	34		○			○		○		
○			動物行動学	犬や猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育とハンドリング、しつけを中心に学習する	1 通	34		○			○		○		
○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ	1 通	68		○			○		○		
○			産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	1 通	51		○			○		○		
○			実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ	1 通	17		○			○			○	
○			野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ	1 通	34		○			○		○		
○			総合実習	動物飼育や接客、施設保全など動物の飼育や職業訓練に必要な技術を幅広く習得する	1 2 通	459				○	○	○	○	○	○
○			動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する	2 通	34		○			○		○		
○			動物外科看護学	外科診療に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を学ぶ	2 通	68		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科愛玩動物看護師コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例毎の個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する	2通	34		○			○		○		
○			動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ	2通	136		○			○			○	
○			動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する	1通	68		○			○			○	
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する	1通	68		○			○				○
○			動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ	2通	34		○			○				○
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	2通	51					○	○			○
○			動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	102					○	○			○
○			動物臨床検査学実習	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	102					○	○			○
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理・麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51					○	○			○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科愛玩動物看護師コース) 令和4年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51				○	○		○			
○			動物看護総合実習	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	2通	187				○	○		○			
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や処置、治療に関する知識の確認を行い、臨床応用について学ぶ。	3通	136		○			○		○			
○			動物内科看護学実習Ⅱ	内科診療に必要な手技など動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。役割分担、指示、補助などチーム医療のリーダーを経験する。	3通	102				○	○		○	○		
○			動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。役割分担、指示、補助などチーム医療のリーダーを経験する。	3通	102				○	○		○			
○			動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の助手、救急救命などの知識の実践力を修得する。役割分担、指示、補助などチーム医療のリーダーを経験する。	3通	102				○	○		○	○		
○			動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。役割分担、指示、補助などチーム医療のリーダーを経験する。	3通	102				○	○		○	○		
○			動物看護総合実習Ⅱ	動物病院での診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーションなど実務能力を習得する。	3通	187				○		○	○	○		
○			動物愛護・適正飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど愛護・適正飼養に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	96				○	○		○			
合計					37科目		3139単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の単位修得を以て卒業要件とする。全科目必須履修、定期試験で評価する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	35週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日		高橋 仁		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日		東郷 治久		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	専門課程	ペットビジネス学科ドッグトリマーコース		平成19年文部科学省 告示第20号	-																		
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と技能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1700時間	884時間		816時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人	99人	0人	6人	4人	10人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:評価点100～90AA、89～80A、79～60B、59～40C、40～0Dの5段階 Dは不合格 評価の方法:実技・筆記試験・授業態度・出席率を総合的に評価する。																		
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月15日		卒業・進級条件		履修する全科目を単位修得した者																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個別面談、保護者面談		課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 技能競技会への参加 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ペットショップ、動物病院、動物飼育施設他 ■就職指導内容 就職ガイダンス、企業説明会、スーツセミナー、メイクセミナー、個別相談 ■卒業生数: 46人 ■就職希望者数: 46人 ■就職者数: 46人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・なし (令和4年度卒業生に関する 2023年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JDAトリマー1級</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>JKC トリマーC級</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>31人</td> </tr> </tbody> </table> JDA=全日本愛犬技術者指導協会 JKC=ジャパンケネルクラブ			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JDAトリマー1級	③	43人	43人	JKC トリマーC級	③	43人	43人	ビジネス能力検定	③	43人	31人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
JDAトリマー1級	③	43人	43人																				
JKC トリマーC級	③	43人	43人																				
ビジネス能力検定	③	43人	31人																				
中途退学の現状	■中途退学者 9名 令和4年4月1日時点において、在学者99名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者90名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 病気療養、学習意欲消失、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談の実施、保護者面談の実施、校内行事の定期開催		■中退率 9%																				
経済的支援制度	・入学時特待生制度 ・わんわん奨学生制度 ・進級時特待生制度 ・震災復興特別進学応援制度 ・震災復興学生寮費サポート制度 ・一人暮らし応援制度 ・運転免許取得応援制度 ・通学定期代半額応援制度 ・自動車通学サポート制度 ・自動車購入応援制度 など																						
第三者による学校評価	なし																						
当該学科のホームページURL	https://www.tip.ac.jp/																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校教職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認をもって決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時)

第1回 令和4年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和4年10月3日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・複数の専門知識、技術をもった人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いして

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド
-----------------	--	------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月20日 つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ活動の内容と配属について講義を受け理解を深めた。
 日常の授業準備時等に動物提供や施設の使用など要望や注意点についてつくばわんわんランド各部署長とその都度協議し、指導に反映させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和4年9月17日から9月19日に、校長の指示により、教員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日～18日 つくばわんわんランドの動物飼育研修に教職員を参加させる。
 令和5年9月～10月 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

年度末に全職員による企業等から講師を招いて就職指導などの実務研修会を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

各業界団体が主催する学会や競技会、セミナー等への参加を奨励し、校長の決済により参加費、交通費等の経費を一部または全額支給する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自らの教育活動と学校運営について、社会や業界のニーズに合致した目標設定であるか、またその取り組みが適正であるかを判断し、その評価と公表により組織的、継続的な改善を図るものである。
 学校教職員、企業、業界団体、卒業生など学校に関係する人達がそれぞれの視点で学生の事を考え、意見を出し合い、より良い学校づくりに寄与するものである。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。

管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。

評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局

松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 7月公表

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ドッグトリマーコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			犬学	犬の種類、習性、しつけ等について学習する	1 通	68		○			○		○		
○			猫学	猫の種類、習性、飼い方等について学習する	1 通	34		○			○		○		
○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1 2 通	102		○			○		○		
○			ペット販売学	ペット販売に必要な知識、説明方法、法規などを学習する	1 通	34		○			○		○		
○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1 通	68		○			○		○		
○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	1 2 通	136		○			○		○		
○			公衆衛生学	公衆衛生について意義、法律、病気などを学習する。	2 通	34		○			○			○	
○			ビジネスマナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2 通	34		○			○		○		
○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2 通	34		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ドッグトリマーコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			飼育管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	2通	34		○			○		○		
○			ペットショップ概論	ペットショップの役割、在り方、経営方法などモデルケースを学習する	2通	34		○			○		○		
○			グルーミング概論	犬の手入れ方法、道具の使い方等を犬種別に学習する	1 2通	136		○			○		○		
○			トリミング概論	犬のカットスタイルについて犬種、スタイル別に必要な技術とともに学習する	1 2通	136		○			○		○		
○			トリミング実習	犬のカット方法を実際の犬を使って実習で習得する	1 2通	612				○	○		○	○	
○			ハンドリング実習	ドッグショーでの犬の扱い方、歩かせ方などを実習で習得する	1通	68				○	○		○		
○			繁殖学実習	犬の交配、出産などの管理を実習で習得する	2通	68				○	○		○		
○			総合実習	レクリエーション大会、学園祭、動物愛護行事、わんわんランド研修、研修旅行など広い分野の実習を行う	2通	68				○	○	○	○		○
合計					17科目		1700単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の単位修得を以て卒業要件とする。全科目必須履修、定期試験で評価する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	35週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																		
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日	高橋 仁	〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日	東郷 治久	〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																	
文化・教養	専門課程	ペットビジネス学科ドッグトレーナーコース		平成19年文部科学省 告示第20号	-																	
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と技能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																					
認定年月日	平成27年2月17日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	1700時間	918時間		782時間																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人	87人	0人	3人	1人	4人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:評価点100～90AA、89～80A、79～60B、59～40C、40～0Dの5段階 Dは不合格 評価の方法:実技・筆記試験・授業態度・出席率を総合的に評価する。																		
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月15日		卒業・進級条件	履修する全科目を単位修得した者																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個別面談、保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 技能競技会への参加 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) ペットショップ、動物病院、動物飼育施設他 ■就職指導内容 就職ガイダンス、企業説明会、スーツセミナー、メイクセミナー、個別相談 ■卒業生数 40 人 ■就職希望者数 40 人 ■就職者数 40 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・なし (令和4年度卒業者に関する 2023年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JDAトレーナー1級</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>JDAトリマー3級</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>34人</td> </tr> </tbody> </table> JDA=全日本愛犬技術者指導協会			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JDAトレーナー1級	③	40人	40人	JDAトリマー3級	③	40人	40人	ビジネス能力検定	③	40人	34人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
JDAトレーナー1級	③	40人	40人																			
JDAトリマー3級	③	40人	40人																			
ビジネス能力検定	③	40人	34人																			
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 令和4年4月1日時点において、在学者87名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者80名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学校生活不適合、体調不良、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談の実施、保護者面談の実施、校内行事の定期開催		■中退率	8 %																		
経済的支援制度	・入学時特待生制度 ・わんわん奨学生制度 ・進級時特待生制度 ・震災復興特別進学応援制度 ・震災復興学生寮費サポート制度 ・一人暮らし応援制度 ・運転免許取得応援制度 ・通学定期代半額応援制度 ・自動車通学サポート制度 ・自動車購入応援制度 など																					
第三者による学校評価	なし																					

当該学科の
ホームページ
URL

<https://www.tip.ac.jp/>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校教職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認をもって決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時)

第1回 令和4年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和4年10月3日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・複数の専門知識、技術をもった人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いして

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド
-----------------	--	------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月20日 つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ活動の内容と配属について講義を受け理解を深めた。
 日常の授業準備時等に動物提供や施設の使用など要望や注意点についてつくばわんわんランド各部署長とその都度協議し、指導に反映させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和4年9月17日から9月19日に、校長の指示により、教員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日～18日 つくばわんわんランドの動物飼育研修に教職員を参加させる。
 令和5年9月～10月 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

年度末に全職員による企業等から講師を招いて就職指導などの実務研修会を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

各業界団体が主催する学会や競技会、セミナー等への参加を奨励し、校長の決済により参加費、交通費等の経費を一部または全額支給する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自らの教育活動と学校運営について、社会や業界のニーズに合致した目標設定であるか、またその取り組みが適正であるかを判断し、その評価と公表により組織的、継続的な改善を図るものである。
 学校教職員、企業、業界団体、卒業生など学校に関係する人達がそれぞれの視点で学生の事を考え、意見を出し合い、より良い学校づくりに寄与するものである。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。

管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。

評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局

松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 7月公表

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ドッグトレーナーコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			公衆衛生学	公衆衛生について意義、法律、病気などを学習する。	1 通	34		○			○			○	
○			飼育学	動物飼育の方法について学習する	1 2 通	102		○			○			○	
○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1 通	34		○			○			○	
○			動物行動学	動物の行動について、特に犬の習性について学習する	1 通	34		○			○			○	
○			動物社会学	社会の中での動物の役割、扱い方などを学習する。	1 通	34		○			○			○	
○			伴侶動物学	ペットとしての動物の特性、飼養方法等を学習する	1 通	68		○			○			○	
○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1 通	68		○			○			○	
○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	1 2 通	68		○			○			○	
○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2 通	34		○			○			○	
合計															
					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ドッグトレーナーコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			飼育管理学	動物の飼育方法と、管理方法について学習する	2 通	34		○			○		○		
○			動物環境学	動物を飼育する環境、動物がいる場所の環境などについて学習する。	2 通	34		○			○		○		
○			動物管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	2 通	34		○			○		○		
○			ビジネス マナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2 通	34		○			○		○		
○			ペットショ ップ概論	ペットショップの役割、在り方、経営方法などモデルケースを学習する	2 通	34		○			○		○		
○			動物衛生学	動物飼養に関する消毒法、廃棄物の扱い方等を学習する	1 通	68		○			○		○		
○			動物生態学	動物が生息する環境や生態を学習する	1 通	34		○			○				
○			ペット販売学	ペット販売に必要な知識、説明方法、法規などを学習する	1 通	34		○			○		○		
○			ペットシ ッター概論	ペットシッターの役割、在り方などをモデルケースを上げて学習する	2 通	34		○			○		○		
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ドッグトレーナーコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アジリティ概論	アジリティのルール、練習方法、動物の管理方法などを学習する	2通	34		○			○			○	
○			しつけ訓練学	犬の習性、骨格、気質などを理解し、その訓練方法を学習する	2通	68		○			○		○		
○			グルーミング実習	犬の手入れ方法、シャンプー、カットスタイルなどを実習で習得する	1 2通	170				○	○		○		
○			トレーニング実習	犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する	1 2通	476				○	○		○		
○			アジリティ実習	アジリティの練習を実習で行う	2通	68				○	○			○	
○			総合実習	レクリエーション大会、学園祭、動物愛護行事、わんわんランド研修、研修旅行など広い分野の実習を行う	2通	68				○	○	○	○		○
合計					24科目	1700単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の単位修得を以て卒業要件とする。全科目必須履修、定期試験で評価する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	35週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
つくば国際ペット専門学校	平成18年3月10日	高橋 仁	〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																			
学校法人つくば文化学園	平成18年3月10日	東郷 治久	〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																		
文化・教養	専門課程	ペットビジネス学科動物衛生看護コース	平成19年文部科学省 告示第20号	-																																		
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と技能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																																					
認定年月日	平成27年2月17日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																															
2年	昼間	2312時間	1258時間		1054時間																																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
20人	7人	0人	3人	4人	7人																																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:評価点100～90AA、89～80A、79～60B、59～40C、40～0Dの5段階 Dは不合格 評価の方法:実技・筆記試験・授業態度・出席率を総合的に評価する。																																		
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月15日		卒業・進級条件	履修する全科目を単位修得した者																																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個別面談、保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 技能競技会への参加 ■サークル活動: 有																																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ペットショップ、動物病院、動物飼育施設他 ■就職指導内容 就職ガイダンス、企業説明会、スーツセミナー、メイクセミナー、個別相談 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>3</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>3</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>3</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 ・なし (令和4年度卒業者に関する 2023年5月1日 時点の情報)		■卒業生数	3	人	■就職希望者数	3	人	■就職者数	3	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	100	%	主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JDA小動物衛生看護士1級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>JDAトリマー3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> JDA=全日本愛犬技術者指導協会				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JDA小動物衛生看護士1級	③	3人	3人	JDAトリマー3級	③	3人	3人	ビジネス能力検定	③	3人	3人
■卒業生数	3	人																																				
■就職希望者数	3	人																																				
■就職者数	3	人																																				
■就職率	100	%																																				
■卒業者に占める就職者の割合	100	%																																				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																			
JDA小動物衛生看護士1級	③	3人	3人																																			
JDAトリマー3級	③	3人	3人																																			
ビジネス能力検定	③	3人	3人																																			
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 令和4年4月1日時点において、在学者7名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者6名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学習意欲喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談の実施、保護者面談の実施、校内行事の定期開催		■中退率	14 %																																		
経済的支援制度	・入学時特待生制度 ・わんわん奨学生制度 ・進級時特待生制度 ・震災復興特別進学応援制度 ・震災復興学生寮費サポート制度 ・一人暮らし応援制度 ・運転免許取得応援制度 ・通学定期代半額応援制度 ・自動車通学サポート制度 ・自動車購入応援制度 など																																					
第三者による学校評価	なし																																					
当該学科のホームページURL	https://www.tip.ac.jp/																																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校教職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認をもって決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時)

第1回 令和4年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和4年10月3日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・複数の専門知識、技術をもった人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技能、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いして

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド
-----------------	--	------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月20日 つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ活動の内容と配属について講義を受け理解を深めた。
 日常の授業準備時等に動物提供や施設の使用など要望や注意点についてつくばわんわんランド各部署長とその都度協議し、指導に反映させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和4年9月17日から9月19日に、校長の指示により、教員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日～18日 つくばわんわんランドの動物飼育研修に教職員を参加させる。
 令和5年9月～10月 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

年度末に全職員による企業等から講師を招いて就職指導などの実務研修会を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

各業界団体が主催する学会や競技会、セミナー等への参加を奨励し、校長の決済により参加費、交通費等の経費を一部または全額支給する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自らの教育活動と学校運営について、社会や業界のニーズに合致した目標設定であるか、またその取り組みが適正であるかを判断し、その評価と公表により組織的、継続的な改善を図るものである。
 学校教職員、企業、業界団体、卒業生など学校に関係する人達がそれぞれの視点で学生の事を考え、意見を出し合い、より良い学校づくりに寄与するものである。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。

管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。

評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局

松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 7月公表

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科動物衛生看護コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みと解剖学及び生理学の基礎を知り、動物体の構造と機能について学習する	1 通	136		○			○			○	
○			動物繁殖学	犬や猫の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。ペットに適正な繁殖について学習する	1 通	34		○			○			○	
○			動物病理学	生理機能の障害からどのような病気が発生し、どのように変化し、どのように回復するかを理解する。病変の特徴や分類などを学習する。	1 通	34		○			○			○	
			動物薬理学	獣医師が処方する薬剤についてその薬理作用や取り扱い、保存方法を習得し、服薬指導について学習する	1 通	68		○			○			○	
○			動物感染症学	動物に感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習する	1 通	102		○			○			○	
○			動物看護学概論	小動物獣医療における動物看護師の職域を確立するため多岐にわたる獣医師の業務を理解し、動物看護技術を学習する	1 通	68		○			○			○	
○			動物医療関連法規	動物看護師が行う獣医療関連業務とそれを取り巻く法律の仕組みを理解し、法令遵守の精神と動物関連の法令を学習する	2 通	34		○			○			○	
○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生などについて学習する	1 通	68		○			○			○	
○			人間動物関係学	人間と動物の関係の歴史を理解し、人間と動物の関係性と動物介在療法などの活動を学習する	1 通	34		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科動物衛生看護コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物福祉倫理	動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規や人との関わりから動物福祉への精神を学習する	1 通	34		○			○		○		
○			動物行動学	犬や猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育とハンドリング、しつけを中心に学習する	1 通	34		○			○		○		
○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ	1 通	68		○			○		○		
○			産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	1 通	51		○			○		○		
○			実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ	1 通	17		○			○			○	
○			野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ	1 通	34		○			○		○		
○			総合実習	動物飼育や接客、施設保全など動物の飼育や職業訓練に必要な技術を幅広く習得する	1 2 通	459					○	○	○	○	○
○			動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する	2 通	34		○			○		○		
○			動物外科看護学	外科診療に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を学ぶ	2 通	68		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科動物衛生看護コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例毎の個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する	2通	34		○			○		○		
○			動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ	2通	136		○			○			○	
○			動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する	1通	68		○			○			○	
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する	1通	68		○			○				○
○			動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ	2通	34		○			○				○
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	2通	51					○	○			○
○			動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	102					○	○			○
○			動物臨床検査学実習	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	102					○	○			○
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理・麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51					○	○			○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科動物衛生看護コース) 令和4年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51			○	○		○		
○			動物看護総合実習	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	2通	187			○	○		○		
合計						33科目	2312単位時間(単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の単位修得を以て卒業要件とする。全科目必須履修、定期試験で評価する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	35週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日		高橋 仁		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日		東郷 治久		〒300-4353 茨城県つくば市沼田字川戸578番地 (電話) 029-866-2800																	
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																
文化・教養	専門課程	ペットビジネス学科ペットケア総合コース				平成19年文部科学省 告示第20号	-																
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と技能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	2年 昼間	1700時間	952時間		748時間		単位時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人		83人	0人	4人	3人	7人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:評価点100～90AA、89～80A、79～60B、59～40C、40～0Dの5段階 Dは不合格 評価の方法:実技・筆記試験・授業態度・出席率を総合的に評価する。																		
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月15日			卒業・進級条件	履修する全科目を単位修得した者																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、個別面談、保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 技能競技会への参加 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) ペットショップ、動物病院、動物飼育施設他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 就職ガイダンス、企業説明会、スーツセミナー、メイクセミナー、個別相談 ■卒業生数: 29人 ■就職希望者数: 29人 ■就職者数: 29人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他: なし				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JDAペットケアマネージャー1級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>JDATレーナー3級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>JDATリマナー3級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table> JDA=全日本愛犬技術者指導協会					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JDAペットケアマネージャー1級	③	29人	29人	JDATレーナー3級	③	29人	29人	JDATリマナー3級	③
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
JDAペットケアマネージャー1級	③	29人	29人																				
JDATレーナー3級	③	29人	29人																				
JDATリマナー3級	③	29人	29人																				
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 3% 令和4年4月1日時点において、在学者83名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者80名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 病気療養、学習意欲喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談の実施、保護者面談の実施、校内行事の定期開催																						
経済的支援制度	・入学時特待生制度 ・わんわん奨学生制度 ・進級時特待生制度 ・震災復興特別進学応援制度 ・震災復興学生寮費サポート制度 ・一人暮らし応援制度 ・運転免許取得応援制度 ・通学定期代半額応援制度 ・自動車通学サポート制度 ・自動車購入応援制度 など																						
第三者による学校評価	なし																						

当該学科の
ホームページ
URL

<https://www.tip.ac.jp/>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校教職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認をもって決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時)

第1回 令和4年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和4年10月3日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・複数の専門知識、技術をもった人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いして

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド
-----------------	--	------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和4年7月20日 つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ活動の内容と配属について講義を受け理解を深めた。
 日常の授業準備時等に動物提供や施設の使用など要望や注意点についてつくばわんわんランド各部署長とその都度協議し、指導に反映させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

令和4年9月17日から9月19日に、校長の指示により、教員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

令和5年9月16日～18日 つくばわんわんランドの動物飼育研修に教職員を参加させる。
 令和5年9月～10月 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

年度末に全職員による企業等から講師を招いて就職指導などの実務研修会を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

各業界団体が主催する学会や競技会、セミナー等への参加を奨励し、校長の決済により参加費、交通費等の経費を一部または全額支給する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自らの教育活動と学校運営について、社会や業界のニーズに合致した目標設定であるか、またその取り組みが適正であるかを判断し、その評価と公表により組織的、継続的な改善を図るものである。
 学校教職員、企業、業界団体、卒業生など学校に関係する人達がそれぞれの視点で学生の事を考え、意見を出し合い、より良い学校づくりに寄与するものである。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。

管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。

評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局

松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和4年10月1日～令和5年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 7月公表

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.tip.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ペットケア総合コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			犬学	犬の種類、習性、しつけ等について学習する	1 通	68		○			○		○		
○			猫学	猫の種類、習性、飼い方等について学習する	1 通	34		○			○		○		
○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1 2 通	102		○			○		○		
○			動物管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	1 通	34		○			○		○		
○			動物社会学	社会の中での動物の役割、扱い方などを学習する。	1 2 通	68		○			○		○		
○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1 通	68		○			○		○		
○			寄生虫学	動物に寄生する寄生虫についてその特長や対処方法を学習する	2 通	68		○			○			○	
○			ビジネスマナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2 通	34		○			○		○		
○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2 通	34		○			○		○		
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ペットケア総合コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	2 通	34		○			○		○		
○			伴侶動物学	ペットとしての動物の特性、飼養方法等を学習する	2 通	68		○			○		○		
○			エキゾチック アニマル概論	代表的なエキゾチックアニマルについて飼養の方法や性質について学習する	1 通	34		○			○			○	
○			生理学	動物、特に犬と猫について生理について学習する	1 通	34		○			○			○	
○			繁殖学	犬の繁殖、ブリーディングについて体系的に学習する	1 通	34		○			○		○		
○			薬理学	動物病院で使用する薬剤について効用と処方について学習する	1 通	34		○			○			○	
○			ペット販売学	ペット販売に必要な知識、説明方法、法規などを学習する	1 通	34		○			○		○		
○			病理学	動物病院で扱う代表的な動物の病気について学習する	2 通	68		○			○		○		
○			免疫学	動物の免疫について学習する	2 通	34		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ペットビジネス学科ペットケア総合コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物生態学	動物が生息する環境や生態を学習する	2 通	34		○			○		○		
○			ペットシッター概論	ペットシッターの役割、在り方などをモデルケースを上げて学習する	2 通	34		○			○		○		
○			エキゾチック アニマル実習	ハムスター、ウサギなどの動物の飼養方法を実習で習得する	1 通	34				○	○			○	
○			解剖学実習	動物の臓器の特長について実習で習得する	1 通	68				○	○			○	
○			グルーミング 実習	犬の手入れ方法、シャンプー、カットスタイルなどを実習で習得する	1 2 通	204				○	○			○	
○			動物看護学実習	動物の看護の方法全般について実習で習得する	1 通	68				○	○			○	
○			トレーニング 実習	犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する	1 2 通	204				○	○			○	
○			繁殖学実習	犬の交配、出産などの管理を実習で習得する	1 2 通	102				○	○			○	
○			総合実習	レクリエーション大会、学園祭、動物愛護行事、わんわんランド研修、研修旅行など広い分野の実習を行う	2 通	68				○	○	○	○		○
合計					27科目		1700単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目の単位修得を以て卒業要件とする。全科目必須履修、定期試験で評価する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	35週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。